

知らなかった心象風景に巡りあう旅へ……  
あなたも出かけてみませんか。

言葉がやさしい。心が洗われる。忙しいときに読むと気分が晴れる。  
おずかしそうな仏教の話が身近なものとしてスーッと入ってくる。  
—— 十人十色の読後感が寄せられています。

浅草寺  
心の旅へ

年間参詣者3千万人、四季折々の催しでもおなじみの  
浅草寺の僧侶による珠玉のエッセイ集

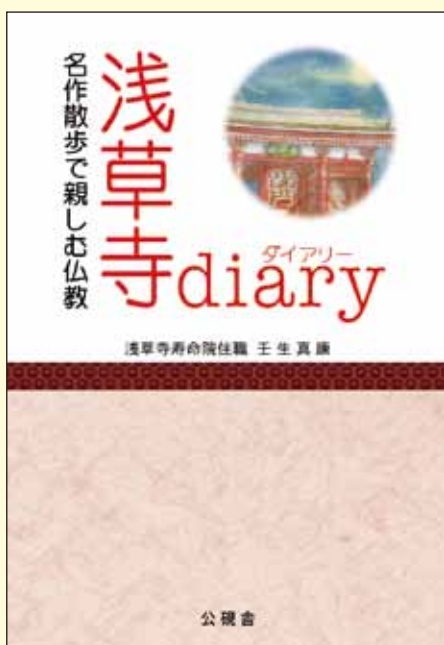
# 浅草寺<sup>ダイアリー</sup>diary 名作散歩で親しむ仏教

浅草寺寿命院住職 壬生真康 著

四六判・並製 総頁188頁

定価 1,500円+税

ISBN 978-4-9908461-2-1



浅草寺において2005年から教化部執事を務める寿命院住職・壬生真康師が、浅草における日常の暮らしや折々の出来事を通じて、生きていくこと、自分のあり方、他者との関係、生死、善悪、人間と自然、災害・紛争について仏教との関わりを説く法話を季節の彩りにあふれたエッセイ集としてご紹介します。

師の「眼」を通してみると、身近な花や草木、ふと見上げる空模様、毎日の出来事、わたしたちの暮らしや人生には、それぞれどのような意味があるのでしょうか。

古今東西の名作散歩で出会う圧倒的な「えにし」の数々により、仏教の教えがより親しみやすくなる全24編を収載しています。

## 主な目次 (全24編)

- 1 春から夏へ 春ひらく／大きな乗り物／藤を見る／特別な場所／五月の空／つなぐもの／緑蔭の季節／雨催いの日に
- 2 夏から秋へ 綺麗な心／歩みゆけば／夏の花によせて／景色の音／蓮の露／天の華、心の木／月下の道
- 3 秋から冬へ 秋の花の世界／過ごしやすい時／実が熟す／問うこと、答えること／遠近の鐘
- 4 冬から春へ 同じ音から／待つ間／見えないもの／漁る人たち

## 本書に登場する「名作」の例

万葉集・古今和歌集などから和歌、松尾芭蕉・与謝蕪村などの俳句、嵐山・杜若・鐘の音など能・狂言／歌舞伎、枕草子・徒然草・伊勢物語など日本の古典、『坊っちゃん』『澀江抽斎』『なめとこ山の熊』など日本の小説、井伏鱒二「紙凧」・長田弘「最初の質問」・金子みすゞ「朝顔のつる」など日本の詩。ほか中国・インド由来のものとして論語、唐詩選、大唐西域記、リグ・ヴェーダ、大乘起信論など、またいわゆる「西洋」由来のものとして、カフカ、ワーズワース、リルケ、シェイクスピア、ロバート・フロスト、エドワード・モースの作品など古今東西の名作が多数登場します。

こう けん しゃ 公 硯 舎 〒248-0025 神奈川県鎌倉市七里ガ浜東5-10-15  
TEL 090-7727-8889 FAX 0467-33-2701

<http://koukenshapub.com/ja/>

発売 大学図書

TEL 03-3295-6861  
FAX 03-3219-5158

全国の書店でお求めいただけます。